

ゼミ研究活動の紹介

1. 卒論（発表予定もしくは過去に発表された卒論）と研究内容

■ これまでの卒論タイトルの例

- ①日本の労働時間短縮——ドイツ、オランダを参考に考える（平成 28 年度）
- ②日本が出生率を上昇させるには——スウェーデンを参考に（平成 27 年度）
- ③ワーク・ライフ・バランス——女性労働力率と出生率の関係（平成 26 年度）
- ④「価値のある人生」とは何であるか——潜在能力アプローチと選択の自由（平成 25 年度）
- ⑤マックス・ウェーバーから読み解く経済と倫理——現在に適した倫理とは（平成 24 年度）

■ ゼミ研究活動（演習時間中での研究内容）

藤田先生は、経済学史と制度経済学・比較経済システム論が専門で、スウェーデンの経済学者ミュルダールの学説研究で有名です。ゼミの大きな研究テーマは「福祉と経済の関係性」です。

ゼミ生の関心に沿って、これまで次のような研究をしてきました。

- ①経済学史・社会思想史——スミス、ケインズ、ミュルダールなどの文献輪読
- ②日本の経済制度や社会保障制度の特徴を他国との比較から研究——各種文献、白書など輪読
- ③スウェーデン、北欧——各種文献輪読

平成 29 年度の輪読文献は、藤田菜々子（2017）『福祉世界——福祉国家は越えられるか』中公選書、Offer and Söderberg (2016) *The Nobel Factor: The Prize in Economics, Social Democracy, and the Market Turn*, Princeton University Press.

2. 特記事項（研究会、発表などの研究活動）

年度により異なりますが、次のような特別研究活動を行ってきました（②・③・⑦は 30 年度も予定）。

- ①スウェーデンの特殊鋼企業サンドビック名古屋支社への訪問
- ②京都・龍谷大学経済学部の小峯ゼミとの合同ゼミ（研究報告、前学期）
- ③名古屋圏の他大学を含めた合同ゼミ（研究報告、後学期）
- ④遠方の他大学の先生を招いての特別ゼミ
- ⑤映画会
- ⑥ゼミ合宿での研究会
- ⑦ゼミ OB/OG 会の開催による卒業生（=社会人）と在校生の交流